

神は世を愛された

ヨハネの福音書 3章 16-21 節

はじめに

先週からクリスマスを待ち望むアドベントに入っています。16節の御言葉は、聖書の中で最も有名な御言葉の一つです。宗教改革者のマルティン・ルターは、この御言葉を「小さな福音書」と呼んだそうです。つまり、キリスト教の中心的な教えである「福音」を最も短く的確に言い表した言葉ということです。

1. 神は世を愛された

16節の御言葉の中心は、神様の愛です。神様は「世」を愛していると言うのです。では、「世」とは何でしょうか。「世」とは、世界のことですが、聖書では特に、神様に背く世界や人類、または神様に敵対する世界や人類を「世」と表現します。ヨハネ 1：9-11には、このようにあります。「**すべての人を照らすそのまことの光が、世に来ようとしていた。この方はもともと世におられ、世はこの方によって造られたのに、世はこの方を知らなかった。この方はご自分のところに来られたのに、ご自分の民はこの方を受け入れなかった**」。「世」とは、神様が造られた世界や人類を意味します。しかし、神様が造られた世界や人類は、神様ご自身を受け入れず、背を向けたのです。神様が愛した「世」というのは、神様を受け入れず、背を向ける世界や人類のことです。その意味で、神様が「世」を愛したということは、世界や人類に対する神様の一方的な愛、無条件の愛が語られているということです。

この16節の御言葉と同じような内容のⅠヨハネ 4：10には、こうあります。「**私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、宥めのささげ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです**」。この御言葉も神様の一方的な愛をよく言い表しています。「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛した」のです。私たちが神様を愛する前から、神様を信じる前から、神様に背を向けている時から、神様は私たちを愛してくださったのです。神様の愛は、一方的で、無条件なのです。

では神様は、神様を受け入れず、背を向ける「世」をどれくらい愛しているのでしょうか。その愛の大きさは、どれくらいなのでしょう。それは、「**ひとり子をお与えになったほど**」です。「ひとり子」というのは、「唯一の子ども」「ただ一人の子ども」という意味です。神様には、何人も子どもがいて、そのうちの一人を与えたというのではないのです。神様には、一人しか子どもがいなくて、その唯一の、ただ一人の子どもを与えたということです。神様の「唯一の子ども」「ただ一人の子ども」は、ご存知のようにイエス様です。私たちにも子どもが一人しかいなくて、その一人の子どもを手放せと言われたら、どう

でしょうか。それがどんなに辛く、心の痛いことであるかは想像に難しくありません。

旧約聖書にアブラハムという人物が登場してきます。彼は、年老いてからイサクという子どもを与えられます。しかしある時、神様はアブラハムに「その子を全焼のささげ物として献げなさい」と言われるのです。何とも理不尽な命令です。しかしアブラハムは、神様の命令に従って、ひとり息子を縛り、刃物を取って屠ろうしました。するとその時、天から声がして、「**その子に手を下してはならない。その子に何もしてはならない。今わたしは、あなたが神を恐れていることがよく分かった。あなたは、自分の子、自分のひとり子さえ惜しむことがなかった**」(創世記 22:12)と言われたのです。この神様の理不尽な命令は、アブラハムが本当に神様を恐れているか、本当に神様を愛しているかを試す試練であったのです。「自分のひとり子を惜しまずにささげること」、それは、その人の愛が本物かどうかを試す最高の方法なのです。アブラハムを試した神様は、今度はご自分がアブラハムと全く同じ方法で「ひとり子を惜しまずにささげること」を通して、ご自分の「世」に対する愛が、いかに本物であるかということを示されたのです。

では、神様はなぜひとり子であるイエス様を、この世にお与えになったのでしょうか。17節には、「**神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである**」とあります。神様は、世を救うために、イエス様をささげられたのです。ここで分かることは、世は救われなければならないということです。世は、神様を受け入れず、背を向ける世界や人類です。世は、神様を受け入れず、背を向けているため、本来、神様の怒りの対象であり、神様に裁かれ、滅ぼされなければならないのです。

聖書は、人類最初の人であるアダムとエバが、神様の命令に背いて禁断の木の実を食べた時から、全人類に罪の性質がもたらされたと教えています。すべての人間が罪の性質を持っているのです。罪の性質とは、神様を受け入れないこと、神様の命令に背くこと、神様を信じないことです。それゆえ本来、すべての人間が、神様の怒りの対象であり、神様に裁かれ、滅ぼされなければならないのです。その意味で、すべての人間は、神様の怒りと裁きから、救われなければならない存在なのです。

私たち日本人は、救われなければならないという認識をほとんど持っていません。死んだ後に、天国や地獄があるとは考えておらず、もしあったとしても相当な極悪人でなければ、みな天国に行けると思っているようです。というよりも、死んだら神や仏になるとさえ思っているのです。これは、聖書の教えと全く違うものです。聖書は、人類はみな罪人で、神様の怒りの対象であり、神様に裁かれ、滅ぼされると教えています。そして人類はみな、その神様の怒りと裁きから救われなければならないと教えています。日本人は非常に楽観的ですが、聖書の教えは非常に危機的なのです。聖書は、人類に救いの道を説いているのです。神様が、私たち人類をなおも愛してくださって、ひとり子であるイエス様をこの世に遣わしてくださいました。そして、そのイエス様によって、御自身の怒りと裁きから、私たちを救おうとされているのです。

2. 御子を信じる者と信じない者

では、神様が私たち人間を愛し、私たち人間に救われてほしいと願っているのなら、すべての人が救われるのでしょうか。神様が愛の方であるなら、全人類を救えば良いと多くの方が言います。神様は、一方的に、無条件に私たちを愛してくださいます。しかし神様は、一方的に、無条件に、私たちを救うことはしません。神様の救いには、条件があるのです。しかしその条件は、一つしかありません。決して難しい条件でもありません。その気になれば、今日、この場でできることです。それは、神様のひとり子イエス様を信じるということです。16節には、「**御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つ**」とされています。また18節に、「**御子を信じる者はさばかれない**」とされています。神様のひとり子イエス様を信じる人は、決して滅ぼされることなく、裁かれることはないのです。むしろ「永遠のいのち」を与えられて、救われるのです。なぜイエス様を信じる人は救われるのでしょうか。イエス様が、私たちの罪を背負って十字架に架かり、私たちの代わりに、神様の怒りと罪の罰を受け、裁かれてくださったからです。イエス様が、私たちのすべての罪を償ってくださったからです。それゆえに、イエス様を信じる人は、神様の怒りから救われ、神様に裁かれず、滅ぼされずに済むのです。

イエス様を信じれば救われる、非常に単純で、簡単なことです。何日も、何年もかかることはありません。沢山の勉強をしなければならぬとか、沢山の修行をしなければならぬということでもありません。その気になれば、今日この場でできることです。年齢も、性別も、社会的地位も、国籍も関係ありません。誰にでも開かれている救いの道なのです。

おわりに

私たち人間は、罪を持っているため、神様の怒りの対象であり、神様に裁かれ、滅ぼされてしまう運命にありました。しかし、それでも神様は、私たちを愛して下さり、救いの道を用意してくださったのです。それは、御自身のひとり子に、私たちの罪を償わせる、御自身のひとり子に、私たちの罪に対する怒りと刑罰を背負わせるというものです。それは、神様の最高の愛の表現です。神様は、最高の愛の表現を通して、私たちに救いの手を差し伸べているのです。18節に、「**御子を信じる者はさばかれない。信じない者はすでにさばかれています。神のひとり子の名を信じなかったからである**」とあります。イエス様を信じる者は、決して裁かれませんが、しかし、イエス様を信じない者は、必ず裁かれます。いつか遠い将来裁かれるとか、死んだら裁かれるというわけではありません。「信じない者はすでにさばかれています」とあるように、この世において、生きている間に裁きが始まるのです。なぜなら、神様がせっかく差し出してくださった救いの手を、神様の最高の愛を拒むからです。神様の救いの手を、神様の最高の愛を拒む者には、神様の厳しい裁きが、この世においても、永遠においても下るのです。どうか、神様の救いの手を、神様の愛を決して拒むことがありませんように。

天におられる私たちの父なる神様。

私たちは、神様に造られた存在です。しかし私たち人間は、神様を受け入れず、神様の命令に背いて歩んできました。そのため私たちは、神様の怒りの対象であり、神様に裁かれ、滅ぼされる運命にありました。しかしそれでも神様は、なおも私たちを愛してください、ひとり子のイエス様を私たちに与えてくださいました。どうか私たちが、神様の愛を受け入れ、私たちの唯一の救いの道であるイエス様を信じ受け入れることができますように。決して、あなたの救いの手を、神様の愛を拒み、この世においても、永遠においても、自らの上に裁きを招くことがありませんように。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。